

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・法学部

課題文は読みやすいが、内容はかなり難しい。そもそも、各小見出しの間にそれほど論理的なつながりがなく、肝心の「関係価値」の説明も曖昧なため、全体の要約は容易ではない。それでも、無理やりまとめると、次のようになるだろう。

「近年、生物多様性の大切さが広く認識されるようになってきた。ただ、保全を目的とするかぎり、生物多様性は人類共通の財産であるが、利用を目的とすると、それは誰のものかが改めて問題となる。生物多様性には、遺伝子資源としての経済価値（交換価値）があるからだ。そのため、生物多様性は、グローバル・コモンズというよりグローバル商品として位置づけられるようになってきている。一方、生物多様性に使用価値を認めてそれを守ってきた地域社会の役割は、無視されている。こうした状況を改めるためにも、生物多様性に『関係価値』という新しい価値を見出し、それによって生物多様性を守る主体としての地域社会同士のつながりを見直す必要がある」

以上のような内容をまとめた上で、人間社会における「関係価値」について具体例を挙げながら論じることが求められている。「生物多様性」という題材そのものは法学部らしくないが、設問を見ればわかるとおり、これは単なる議論のきっかけでしかないので、あまり気にする必要はない。問題提起は、「本当に関係価値を重視すべきか」などでかまわない。

「関係価値」とはそもそもどういうものかが、課題文の説明でははっきりしないが、そこはあまり厳密に考えすぎないほうがよい。漠然と、「ネットワークによって生み出される、経済的利益に還元されない価値」くらいに捉えておけば十分だろう。

ネットワーク作りの大切さを示すようなものであれば、具体例は何でもよい。たとえば、少子高齢社会においては、教育も高齢者福祉も行政や民間企業だけに任せておくことはできないので、地域の住民同士や住民と行政、または企業との密接なネットワーク作りが重要になってくる。また、情報社会におけるインターネットによるネットワーク作りとか、専門分野を越えた学際的な研究におけるネットワーク作りなども例に挙げることができるだろう。

もちろん、「関係価値」の考え方を否定する方向でも書けなくはないが、どちらかと言えばイエスの立場で、「関係価値」の概念の有効性を実証するほうが書きやすいはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>